

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901597		
法人名	医療法人社団 春光台クリニック		
事業所名	春光台クリニック グループホーム 荻番館		
所在地	北海道旭川市春光台3条3丁目5-32		
自己評価作成日	令和2年10月6日	評価結果市町村受理日	令和2年11月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvsoyCd=0172901597-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理念の「笑いある生活」を念頭に、ホームの雰囲気は明るく和やかで、いつもどこかで笑い声が聞こえている。
 ・母体がクリニックの為、医療連携が取りやすく、緊急時の対応もスムーズに行う事ができ、医療面で安心できる。
 ・近隣にスーパー、公民館、公園、保育園と地域資源が豊富。
 ・些細な変化も職員間で共有し、速やかにケアに反映できている。
 ・職員同士が何でも話し合える関係性を築けている為、働きやすい環境である。
 ・コロナ禍の中外出行事が制限されている為、施設内で出来る行事や行事食を企画実践し、気分転換になっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年10月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旭川市春光台地区にある平屋建て2ユニットのグループホームである。近くには保育園や公園、スーパーマーケットなどがあり、環境に恵まれている。運営母体であるクリニックからも徒歩圏にある。建物は木を基調とした洋風の造りで、広い居間・食堂スペースから中庭を眺めることができ、敷地内には畑もある。居間は吹き抜けの高い天井で、浴室やトイレも使いやすく造られている。サービス評価の自己評価に職員全体で取り組み、前回の外部評価結果に基づいた改善も着実に行っている。職員は運営理念を理解し、明るく利用者に接している。職員同士の協力関係も良好で、会議では活発な意見交換が行われている。家族との関係については、事業所の様子や利用者ごとの近況を詳しく載せたホーム便りを作成するとともに、感染症の影響でできなかった面会について、窓越しの面会やタブレット端末による対話を計画している。ケアマネジメントの面では、アセスメントシート、身体介護の状況シート、モニタリング表が丁寧に作成され、利用者の状況に基づいたサービスが提供されている。医療支援は、母体医療機関への定期受診を行い、利用者や家族の安心につながっている。外出支援の面は、特に暖かい時期は様々な場所への外出行事を企画し、実現している。快適な環境のもと楽しく過ごすことのできるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(巻番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で意見を出し合い、誰にでもわかりやすい理念を作成した。玄関に掲示したり、ポケットサイズの理念を所持し、各自がいつでも確認できるようにしている。	職員が意見を出し合って作成した独自の理念の中で「家族や地域の方とのふれあいをもてること」と掲げ、地域密着型サービスの意義を確立している。理念を玄関に掲示し、行事の際などに確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年であれば、町内のお祭りに参加したり隣の保育園との交流もあるが、今年はコロナ禍の為出来ていない。	感染症により地域との交流が止まっているが、感染症流行前は町内会のお祭り、保育園児との交流、ボランティアの来訪などが活発で、感染症の収束後は交流を再開する方針としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為出来ていないが、例年であれば運営推進会議で議題として取り上げたり、入居者の方とレクリエーション等で交流して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年であれば、地域の方や家族に呼びかけ会議を開催しているが、今年度は書面開催とし、議事録を配布するにとどまっている為、意見を頂く機会が無い。	会議を年6回程度開催し、現在は書面開催としている。参加者は地域包括支援センター職員、地域住民、利用者家族で、感染症、ラジオ体操の効果、行事、脱水防止などをテーマにしている。会議議事録や資料を家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や改善点等があれば、市の担当者に電話で確認し、記録に残している。外部評価結果・運営推進会議議事録を提出している。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得て情報交換している。年1回、市役所の集団指導に参加している。市役所担当者とは、何かあればすぐに相談できる関係である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて再認識できている。コロナ禍により面会禁止としている為常に施錠しているが、入居者が外に出たい様子があれば、出来る限り散歩やドライブに出掛けている。転倒リスクのある方が「起きた」と思った時にすぐに対応できるようセンサーを設置。	禁止の対象となる具体的な行為を記したマニュアルが整備され、3か月ごとの委員会と年2回の内部研修が開催されている。委員会記録や内部研修記録を整備しているが、内容は十分といえない。感染症対策のため、日中も玄関を施錠しており、利用者の外出希望を察知した場合は同行するようにしている。	後から参照しやすいよう、委員会での話し合いの記録を整備し、内部研修資料も整理しておくことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待にあたる行為・言動が暴力・暴言だけでは無い事を内部研修で再確認。職員のストレスが虐待に繋がってしまう為、ストレスを溜め込まないよう、思いを吐き出せる場面や雰囲気作りを心掛けている。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(壱番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性の高い入居者がいるかいないかの理解は出来ているが、ここ一年で学ぶ機会を設けておらず、制度についての詳しい理解は出来ていないが、資料を用意してあるのですぐに確認できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間を設けて説明している。変更時には一人一人に説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料はホームで直接払うようにしている為、毎月家族に会う機会があり、その際に意見を頂く事もある。畑に植える物の相談や、過去には行事の企画お手伝いをしていただいた事もある。	現在は家族の面会ができないが、電話で家族の意向を確認している。得られた意見を「家族記録」に記載し、共有している。行事や楽しみごとに家族意見を取り入れている。今後、窓越しの面会やタブレット端末を使った面会を行う予定である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議の他、必要時はミニ会議を行い、意見交換の場があり、管理者と話しやすい関係性が出来ている。会議では入居者のケアについて話し合い、出た意見を実践につなげている。	毎月、全体会議とユニットごとの会議があり、職員は活発に意見交換している。定期的な個人面談はしていないが、管理者が随時相談に乗っている。また、行事や室内装飾、ホームだより作成などを職員が分担して行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休暇は取りやすく、管理者は残業のないように業務内容を整備している。現状を直接経営者に伝え、給与の改善に努めてくれた。資格取得時の受験料補助や、資格に見合った手当もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は参加案内をし、それに合わせて勤務調整を行っている。内部研修も定期的に行っている為、学ぶ機会は常にある。研修参加後は研修記録を残し、全職員が周知できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加する事で、他事業所の方との交流の場となっている。今年度は、コロナ禍の為その機会が減っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(壱番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くために、コミュニケーションを取り、本人の気持ちを引き出せるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学やインテークの際に、入居に至るまでの経緯や困っている事を傾聴し、ホームに入居する事で安心できる様に関係性を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの段階で当ホームの空室が無く、緊急性の高い場合には、他の施設やサービスを案内している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者それぞれの得意な事を把握し、実行。その際は、職員が教え頂く姿勢をとる事で、次からは自発的に行ってくれ、できる事の継続にも繋がっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、日常の様子を写真と共に伝えている。状態変化時はその都度電話にて伝えている。家族考案の行事や、畑作業等を一緒に行う事で、本人も、家族と一緒に過ごせる時間を楽しみにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩がてら入所前の住宅を見に行ったり、現在はコロナ禍の為出来ていないが、家族と毎月お寺や自宅に月命日のお参りに出掛けている。	感染症流行前は知人や友人が頻繁に来訪しており、収束後は以前のように来訪してもらう方針である。利用者が馴染みのラーメン店、美容院、図書館などに出かけるのを支援している。車で旭川中心部の街並みを眺め、懐かしむ機会もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の様子をアセスメントしながら、気の合う入居者や、一緒にいて安心できる入居者同士となるよう、席の配置等決めている。パズルをしている入居者の側に他入居者が自然と近寄り、一緒に楽しんでいる様子がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(壱番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援などに対応する体制が整っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子や会話等を記録に残し、毎日の状態を共有している。また、伝える事が困難な方の場合、家族に確認し、その情報も書面に残している。	3割ほどの利用者は言葉で思いや意向を表出でき、難しい方は表情や過去の経験から把握している。アセスメントシートを定期更新し、特記事項欄に興味や嗜好を記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人毎にファイルを作成し、入所時に本人や家族からの聞き取りした情報を保管している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日水分、食事、排泄バイタルを記録し、状態変化がないか確認しながら、各々の状態に合わせたケアを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の記録や本人の状態をアセスメントし、本人・家族からの意向を聞き出し、職員・計画作成が共同して作成。モニタリングを行い個別の介護計画書を作成している。家族に説明し同意を得ている。	毎月モニタリングを行い、計画見直し時は「身体介護の状況」を参考に計画を3か月ごとに更新している。日々の記録でケアプランのチェックを行い、実践内容や利用者の変化なども、よりわかりやすく記載したいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にケアプランも一緒に綴り毎日評価している。また、生活の様子も記入でき、ケア内容等に疑問点があるときには連絡ノート等に記入し、共有しており、ケアの見直しをする気づきになる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療法人ならではのサービスとして、急変時NS,Drに連絡がとれる体制があり、ホームに点滴や医薬品、心電計などを備えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園や公民館、スーパー、保育園等があり、散歩中に挨拶を交わしたり、道路の清掃等を通じ地域の一員としての役割を果たしている。地域のSOSネットワークに加入しており、必要時の協力体制が整っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行っているが、ほとんどの方が母体のクリニックに変更している。専門医の受診も本人・家族の希望に応じている。	利用者は運営母体のクリニックに月1回以上通院し、ホームで送迎している。内科以外は家族または事業所が送迎している。受診内容を個人ごとの「受診・往診記録」に記載し、共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(巻番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝業務日誌を母体のクリニックへFAXしており、必要時は受診している。同法人の看護師の為、急変時には気軽に相談できる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を提出。面会時には病棟のNSIに状況確認をしている。MSWとも連絡を取り、早期退院に向けた情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期についてホームでの事例等を交えわかりやすく説明し、家族の意向を確認している。可能な方には早期の段階で本人にも思いを聞き、アセスメントシートに記載している。状態の変化に伴う気持ちも柔軟に受け止め、ケアを見直し対応している。	利用開始時に「重度化した場合における指針・看取り介護に関する指針」を説明し、署名捺印を得ている。過去に3名の看取りを行ったが最近は事例がなく、今後とも状況に応じて研修等の準備を行う方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルがあり、事務所に掲示している為、いつでも確認できる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練の実施や、スプリンクラーや警報機等正規に稼働する様に、設備会社に点検してもらっている。災害時に備えて発電機や食料を確保している。地域に住んでいる職員が多い為、緊急時の協力体制が出来ている。	年2~4回の夜間想定を含めた避難訓練を行っており、防災会社が立ち会っている。今後数回に1回は消防署の立ち会いも依頼していく。救急救命訓練を定期的を受講し、災害時に必要な備蓄品も用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格やその時の心境、状態に合わせて声掛けの仕方を変え対応しているが、馴れ合いにならない様に気をつけている。個人情報事務所で保管している。	呼びかけは「さん」づけを基本に、家族や本人の意向に沿って愛称で呼ぶこともある。毎年、接遇の勉強会を実施している。申し送りは状況に応じて書面で示し、個人が特定できないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	昼食のメニューや飲み物を選ぶ機会を設けている。誕生日には食べたい物を提供できるように聞き出ししており、決めることが難しい方には、日頃の会話等から好みの物を食べる事ができるようにアセスメントしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日や時間の希望があればその思いに添える様に対応している。思いを伝える事が困難な方は、表情や状態に合わせて、その人らしく生活できるようにその都度必要な支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や行事等に合わせて好みの服を着たり、訪問美容は定期的に予約を入れ、好みの、カラーや長さ等でおしゃれを楽しんでもらっている。コロナ禍で外出できない為、服の移動販売を依頼し、好みの服を選ぶ楽しさを感じてもらっている。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(壱番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑の野菜の収穫から献立、調理、食事までを一緒にやり、共感しながら楽しむことができている。毎年外出の機会を設けていたが、今年は出掛ける事ができない為、出前を取り入れたり、うどん作りをしたり、と、いつもと違う食事を楽しんでいる。	調理マニュアルを基に、毎日食材を見ながら利用者の意向を取り入れて献立を考えている。利用者が煮物やラーメンのスープ作りを手伝うこともある。クレープやタコ焼きを作ったり、庭先で焼き肉や焼きサンマを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	マニュアルに沿って、塩分・栄養成分・カロリーに気をつけて調理している。常食摂取が困難な方には介護食やトロミ剤を使用して、安全に食事ができる様ようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎予防の為、毎食後、義歯を外してうがいする等口腔ケアの声掛けをしている。残歯がある方は歯間ブラシで介入するなど、個別に対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表で排泄状況を把握し、トイレサインを見逃さず、必要時声掛けや誘導を行い、失敗しないでトイレで排泄できるように支援している。	数名の利用者は自立しているが、全員の排泄を「水分・排泄チェック表」に記入して声かけや誘導を行っている。昼夜ともトイレでの排泄を基本に体調に応じてベッド上で排泄用品の交換を行うこともある。パッドから布パンツに移行した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	きな粉や青汁入牛乳の提供や、食事にオリーブオイルを加えたり、食物繊維の多い食材を使用する事で便秘予防している。運動も毎日積極的に取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2～3回は入浴できるように支援しており、拒否のある方には声掛けを工夫し入浴に繋げている。マンツーマンでの入浴の為、ゆっくり会話をしながら楽しむ時間となっている。	毎日、午前から午後まで入浴が可能で、時間帯や入浴順など本人の意向に沿って支援している。一人ひとりお湯を交換し、好きな入浴剤を選んでもらったり職員と会話をしながら入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべくリビングで過ごして作業や運動で活動量をあげたり、昼寝の時間を取り入れたりして夜間の良眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の変更時には副作用等に気をつけ、経過をクリニックに報告している。錠剤が困難な方には粉砕にして処方してもらっている。薬の間違いないようにセットする時点から数名が確認し、内服時には日付、名前、食後声を声を出して読み上げ、食事のお膳の顔写真付きの名前プレートと見比べ誤薬がないように気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別にできる事を役割とし、調理・編み物・パズル・読書等、楽しみながら、有する力を継続している。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(巻番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園や近所の散歩に出掛け、入居前に住んでいた住宅を見に行く事もある。自肅中の為大型スーパーや外食に行くことができないが、ドライブにて季節を感じてもらったり、出前をとり外食の代替えをしている。	普段は車椅子の方も一緒に近くの公園を散歩したり、スーパーマーケットやドラッグストアなどで買い物を楽しんでいる。外出行事で北鎮記念館や護国神社、花フェスタなどに出かけている。冬季以外は毎月市内や近郊をドライブして気分転換している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者は家族の同意で財布を所持し、支払い出来るようにしている。ホームで管理しているお小遣いは、毎月請求書と一緒にお小遣い帳のコピーも発送している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話回線はあるも希望者はいなく、携帯電話を所持している方もほとんど使用していない。必要時は、ホームの電話が使用可能である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面キッチンの為、調理の匂いで食事の時間が近い事を認識する事ができる。リビングの窓は大きく景色がよく見えて季節を感じる事ができる。温湿度計をリビングに用意し、毎日確認。コロナ禍の為、換気を定期的に行っている。	多くの観葉植物が飾られている玄関を中心に、左右に2ユニットがある。居間の大きな窓から、中庭の畑や花壇が見渡せる。廊下や居間の壁には季節の装飾や利用者の作品、日めくりカレンダーなどが掲示されている。冷暖房や加湿器を整備し、居心地よく過ごすことができるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓側にソファを置き自由に使用できる。一人で過ごす方もいれば、仲の良い方同士で作業等しながら過ごしている人もいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や今まで使用していた家具等自由に置いている。状態変化に応じて危険が生じた場合は、本人や家族の同意を得て家具の配置等変える事もある。	タンスが備え付けられている居室に、テレビやベッド、テーブルなどを持ち込んで本人が過ごしやすいように配置している。仏壇や趣味のカメラなどを持ってきている利用者もいる。ペン立てや手紙入れなど、自分の作品を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	クローゼット引き出しに、どこに何を入れるか表記する事で、自分で洗濯物を片づけている。リビングや廊下は歩行器や車椅子の方が十分に通れる様に動線を確保している。また、トイレにはわかりやすい様に張り紙をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901597		
法人名	医療法人社団 春光台クリニック		
事業所名	春光台クリニック グループホーム 貳番館		
所在地	北海道旭川市春光台3条3丁目5-32		
自己評価作成日	令和2年10月6日	評価結果市町村受理日	令和2年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・理念の「笑いある生活」を念頭に、ホームの雰囲気は明るく和やかで、いつもどこかで笑い声が聞こえている。 ・母体がクリニックの為、医療連携が取りやすく、緊急時の対応もスムーズに行う事ができ、医療面で安心できる。 ・近隣にスーパー、公民館、公園、保育園と地域資源が豊富。 ・些細な変化も職員間で共有し、速やかにケアに反映できている。 ・職員同士が何でも話し合える関係性を築けている為、働きやすい環境である。 ・コロナ禍の中外出行事が制限されている為、施設内で出来る行事や行事食を企画実践し、気分転換になっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901597-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年10月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で意見を出し合い、誰にでもわかりやすい理念を作成した。玄関に掲示したり、ポケットサイズの理念を所持し、各自がいつでも確認できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年であれば、町内のお祭りに参加したり隣の保育園との交流もあるが、今年はコロナ禍の為出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為出来ていないが、例年であれば運営推進会議で議題として取り上げたり、入居者の方とレクリエーション等で交流して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年であれば、地域の方や家族に呼びかけ会議を開催しているが、今年度は書面開催とし、議事録を配布するにとどまっている為、意見を頂く機会が無い。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や改善点等があれば、市の担当者に電話で確認し、記録に残している。外部評価結果・運営推進会議議事録を提出している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて再認識できている。コロナ禍により面会禁止としている為常に施錠しているが、入居者が外に出たい様子があれば、出来る限り散歩やドライブに出掛けている。転倒リスクのある方が「起きたい」と思った時にすぐに対応できるようセンサーを設置。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待にあたる行為・言動が暴力・暴言だけでは無い事を内部研修で再確認。職員のストレスが虐待に繋がってしまう為、ストレスを溜め込まないよう、思いを吐き出せる場面や雰囲気作りを心掛けている。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性の高い入居者がいるかいないかの理解は出来ているが、ここ一年で学ぶ機会を設けておらず、制度についての詳しい理解は出来ていないが、資料を用意してあるのですぐに確認できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間を設けて説明している。変更時には一人一人に説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料はホームで直接払うようにしている為、毎月家族に会う機会があり、その際に意見を頂く事もある。畑に植える物の相談や、過去には行事の企画お手伝いをしていただいた事もある。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議の他、必要時はミニ会議を行い、意見交換の場があり、管理者と話しやすい関係性が出来ている。会議では入居者のケアについて話し、出た意見を実践につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休暇は取りやすく、管理者は残業のないように業務内容を整備している。現状を直接経営者に伝え、給与の改善に努めてくれた。資格取得時の受験料補助や、資格に見合った手当もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は参加案内をし、それに合わせて勤務調整を行っている。内部研修も定期的に行っている為、学ぶ機会は常にある。研修参加後は研修記録を残し、全職員が周知できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加する事で、他事業所の方との交流の場となっている。今年度は、コロナ禍の為その機会が減っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くために、コミュニケーションを取り、本人の気持ちを引き出せるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学やインテークの際に、入居に至るまでの経緯や困っている事を傾聴し、ホームに入居する事で安心できる様に関係性を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの段階で当ホームの空室が無く、緊急性の高い場合には、他の施設やサービスを案内している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者それぞれの得意な事を把握し、実行。その際は、職員が教え頂く姿勢をとる事で、次からは自発的に行ってくれ、できる事の継続にも繋がっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、日常の様子を写真と共に伝えている。状態変化時はその都度電話にて伝えている。家族考案の行事や、畑作業等を一緒に行う事で、本人も、家族と一緒に過ごせる時間を楽しみにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩がてら入所前の住宅を見に行ったり、現在はコロナ禍の為出来ていないが、家族と毎月お寺や自宅に月命日のお参りに出掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の様子をアセスメントしながら、気の合う入居者や、一緒にいて安心できる入居者同士となるよう、席の配置等決めている。パズルをしている入居者の側に他入居者が自然と近寄り、一緒に楽しんでいる様子がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援などに対応する体制が整っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子や会話等を記録に残し、毎日の状態を共有している。また、伝える事が困難な方の場合、家族に確認し、その情報も書面に残している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人毎にファイルを作成し、入所時に本人や家族からの聞き取りした情報を保管している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日水分、食事、排泄バイタルを記録し、状態変化がないか確認しながら、各々の状態に合わせたケアを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の記録や本人の状態をアセスメントし、本人・家族からの意向を聞き出し、職員・計画作成が共同して作成。モニタリングを行い個別の介護計画書を作成している。家族に説明し同意を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にケアプランも一緒に綴り毎日評価している。また、生活の様子も記入でき、ケア内容等に疑問点があるときには連絡ノート等に記入し、共有しており、ケアの見直しをする気づきになる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療法人ならではのサービスとして、急変時NS,Drに連絡がとれる体制があり、ホームに点滴や医薬品、心電計などを備えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園や公民館、スーパー、保育園等があり、散歩中に挨拶を交わしたり、道路の清掃等を通じ地域の一人としての役割を果たしている。地域のSOSネットワークに加入しており、必要時の協力体制が整っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行っているが、ほとんどの方が母体のクリニックに変更している。専門医の受診も本人・家族の希望に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝業務日誌を母体のクリニックへFAXしており、必要時は受診している。同法人の看護師の為、急変時には気軽に相談できる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を提出。面会時には病棟のNSIに状況確認をしている。MSWとも連絡を取り、早期退院に向けた情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期についてホームでの事例等を交えわかりやすく説明し、家族の意向を確認している。可能な方には早期の段階で本人にも思いを聞き、アセスメントシートに記載している。状態の変化に伴う気持ちも柔軟に受け止め、ケアを見直し対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルがあり、事務所に掲示している為、いつでも確認できる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練の実施や、スプリンクラーや警報機等正規に稼働する様に、設備会社に点検してもらっている。災害時に備えて発電機や食料を確保している。地域に住んでいる職員が多い為、緊急時の協力体制が出来ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格やその時の心境、状態に合わせて声掛けの仕方を変え対応しているが、馴れ合いにならない様に気をつけている。個人情報事務所で保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	昼食のメニューや飲み物を選ぶ機会を設けている。誕生日には食べたい物を提供できる様に聞き出し、決めることが難しい方には、日頃の会話等から好みの物を食べる事ができるようにアセスメントしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日や時間の希望があればその思いに添える様に対応している。思いを伝える事が困難な方は、表情や状態に合わせて、その人らしく生活できる様にその都度必要な支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や行事等に合わせて好みの服を着たり、訪問美容は定期的に予約を入れ、好みの、カラーや長さ等でおしゃれを楽しんでもらっている。コロナ禍で外出できない為、服の移動販売を依頼し、好みの服を選ぶ楽しさを感じてもらっている。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑の野菜の収穫から献立、調理、食事までを一緒に行い、共感しながら楽しむことができている。毎年外出の機会を設けていたが、今年は出掛ける事ができない為、出前を取り入れたり、うどん作りをしたり、と、いつもと違う食事を楽しんでいる。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	マニュアルに沿って、塩分・栄養成分・カロリーに気をつけて調理している。常食摂取が困難な方には介護食やトロミ剤を使用して、安全に食事ができる様ようになっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎予防の為、毎食後、義歯を外してうがいする等口腔ケアの声掛けをしている。残歯がある方は歯間ブラシで介入するなど、個別に対応している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表で排泄状況を把握し、トイレサインを見逃さず、必要時声掛けや誘導を行い、失敗しないでトイレで排泄できるように支援している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	きな粉や青汁入牛乳の提供や、食事にオリーブオイルを加えたり、食物繊維の多い食材を使用する事で便秘予防している。運動も毎日積極的に取り入れている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2~3回は入浴できるように支援しており、拒否のある方には声掛けを工夫し入浴に繋げている。マンツーマンでの入浴の為、ゆっくり会話をしながら楽しむ時間となっている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべくリビングで過ごして作業や運動で活動量をあげたり、昼寝の時間を取り入れたりして夜間の良眠に繋げている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の変更時には副作用等に気をつけ、経過をクリニックに報告している。錠剤が困難な方には粉碎にして処方してもらっている。薬の間違いないようにセットする時点から数名が確認し、内服時には日付、名前、食後を出して読み上げ、食事のお膳の顔写真付きの名前プレートと見比べ誤薬がないように気を付けている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別にできる事を役割とし、調理・編み物・パズル・読書等、楽しみながら、有する力を継続している。			

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園や近所の散歩に出掛け、入居前に住んでいた住宅を見に行く事もある。自肅中の為大型スーパーや外食に行くことができないが、ドライブにて季節を感じてもらったり、出前をとり外食の代替えをしている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者は家族の同意で財布を所持し、支払い出来るようにしている。ホームで管理しているお小遣いは、毎月請求書と一緒に小遣い帳のコピーも発送している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話回線はあるも希望者はいなく、携帯電話を所持している方もほとんど使用していない。必要時は、ホームの電話が使用可能である。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面キッチンの為、調理の匂いで食事の時間が近い事を認識する事ができる。リビングの窓は大きく景色がよく見えて季節を感じる事ができる。温湿度計をリビングに用意し、毎日確認。コロナ禍の為、換気を定期的に行っている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓側にソファを置き自由に使用できる。一人で過ごす方もいれば、仲の良い方同士で作業等をしながら過ごしている人もいる。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や今まで使用していた家具等自由に置いている。状態変化に応じて危険が生じた場合は、本人や家族の同意を得て家具の配置等変える事もある。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	クローゼット引き出しに、どこに何を入れるか表記する事で、自分で洗濯物を片づけている。リビングや廊下は歩行器や車椅子の方が十分に通れる様に動線を確保している。また、トイレにはわかりやすい様に張り紙をしている。			

目標達成計画

事業所名 春光台クリニック グループホーム

作成日：令和 2年 10月 30日

市町村受理日：令和 2年 11月 6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束適正化検討委員会での話し合いの記録が不十分	後から参照しやすいよう、委員会の記録を整備する	* 委員会の内容を具体的に記録する * 別紙資料がある場合は原本を添付する	2年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。